

平成 29 年度 鑑石園デイサービスセンター

事業報告書

1. 事業運営の概況

地域密着型デイサービスセンターとして、地域との連携の強化を心掛けた。個々の利用者様の身体状況及び生活環境に応じたサービス提供を基本として、残存機能の活性化を図り重度化を防ぐことで、継続して在宅での生活を送れるよう支援を行った。

稼働率については新規利用者の獲得ができず、平成 29 年度の稼働率は 57.9%と伸び悩み、前年度に比べ低下してしまった。

2. 事業計画実施状況

(1) 職員の資質向上の為の方策

① 資格取得の推奨

積極的に資格の取得を推奨し、高度なレベルの知識や技術を習得する事でサービスの質の向上を目指した。

② 職員教育と研修

平成 29 年度は、キャリアパスやレクリエーション関係を中心に外部研修に参加し、知識を深めた。また、外部研修の成果を基に、他の職員に内部研修を行うことでデイサービス全体のレベルアップを図った。

平成 29 年度に行った内部研修については、次の通り。

	研修内容
4 月	認知症について
5 月	接遇
6 月	急変時の対応
7 月	熱中症対策
8 月	認知症の対応
9 月	虐待
10 月	AED・自己評価
11 月	レクリエーション

12月	嘔吐処理
1月	来年度事業計画
2月	感染症
3月	平成29年度の反省

③ チームケアの確立

一人の利用者様に対し、全ての職員が共通の認識に基づき接することができるよう、職員同士の意思疎通を図り、チームで支え合うという基本方針を確立するための環境作りに努めた。

(2) 地域と連携を強化させるための方策

① 地域行事への参加

近隣のお祭りに出かけ、利用者様にも大変喜んでいただくことができた。職員サイドで協力できるものについても可能な限り参加し、地域の方々との交流を深めた。

② 地域への積極的な情報発信

支援センターや他の在宅サービスの職員と協力して、民協や地区の集会への積極的な参加、パンフレットや季刊誌を配布する等、積極的に情報を発信した。

③ ボランティアの充実

読み聞かせや踊りのボランティアを積極的に受け入れ、交流を図った。また、近隣保育園の園児による歌と遊戯は利用者様に大変喜んでいただくことができた。

④ 運営推進会議の開催

地域の方やご家族に活動状況を報告し、必要な要望や助言を聴く機会を設け、地域との連携や運営の透明化に努めた。

(3) 個別ケアの充実とリスク管理を徹底させるための方策

① 個別機能訓練の強化と向上

ケアプランを基に、利用者様、ご家族の希望に沿った内容の個別機能訓練計画書を作成し、機能訓練指導員を中心に、介護職員も協力して機能訓練を行った。

訓練内容については、家庭では行う事が難しい運動等もできるだけ取り入れて、身体能力の維持、向上に役立てるよう工夫した。

また、外気に触れ、景色を楽しんで頂くことを目的として、屋外歩行訓練を積極的に行ったところ、意欲の向上が見られ、楽しい雰囲気の中で行う事ができた。

② 個別対応の拡大

個々の利用者様について、ケアプランを基に介護支援専門員と連携し、利用者様とご家族のニーズを把握した上で、柔軟に対応した通所介護計画を作成した。

サービス提供に際しては、通所介護計画に基づき、個別対応を心掛けた。

③ リスクマネジメント意識の向上

ヒヤリハットをその場で報告することで、事故を未然に防ぐことができた。

また、危険箇所や動作、事故につながる可能性のあるものについては、ミーティング時や朝礼時において、その都度改善策・対応方法についての検討を行い、改善に努めた。